

アイリス Letter

保護者の皆様へ



2026年3月19日発行
第5号
広島女学院中学高等学校

<聖書のことば>

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。

テサロニケの信徒への手紙一 5章16～18節

2025年度の終業の日を迎えました。中学生、高校生のすべての生徒のみなさん、一年間しっかり歩みましたね。本当に素晴らしい歩みです。みなさんの広島女学院の学びを大切に、取り組む姿勢をみて、心からうれしく思っています。それには、保護者の方の、ご家庭で作ってくださる生徒の安心できる環境があることを思います。本当にありがとうございます。

短い3学期ではありましたが、学校行事で楽しむ姿がありました。中学校のオラトリカルコンテストは、発表者の一生懸命が伝わってきました。同じ日にあった、高校の球技大会。寒い朝にたくさんのクラスが球技大会に向けて練習している光景には驚きました。探究フェスの発表は、とても面白く、内容が素晴らしかったです。中1の聖書劇、中3・高1のダンス発表も生徒が楽しんでいる空間にいただけで、私も本当に楽しくなっていました。

このことが実現できるのは、自分も大切、他の人も大切であるという広島女学院が大切にす隣人愛の精神が、生徒一人ひとりにあるからだと思います。今回の聖句も、いつも喜び、どんなことにも感謝することは、一人ではできないことです。しかし、笑い合い、泣きあい、がんばり合う友がいること、見守ってくれる人がいることでできることです。何より、その関わりを大切にしようとする心をその人が持っているからできることです。あえて言うならば、自分中心で、自分が良ければとばかり考えれば、いつも不平を言い、何にも感謝しない、そんなことにもなりかねません。私は、生徒のみなさんの生きる姿を見るたびに、本当に希望だと思うのです。

さて、私は、今年度をもって、広島女学院を退職いたします。8年間にわたり、校長を務めさせていただきました。保護者のみなさま、生徒のみなさん、本当にありがとうございました。広島女学院が大切にしてきたこと、そしてこれからも大切にしていきたいことを上に書きました。みなさま、お一人お一人に、神様の平安と慰めがありますよう、お祈りいたします。

(校長)



中学入試、新入生オリエンテーションについて

1月21日（水）に、多くの受験生をむかえ中学入試が行われました。

前日には高2の生徒たちが教室掃除を担当し、受験生にとって気持ちの良い環境を整えてくれました。入試当日も朝早くから受験生が安心して試験に臨めるよう働いてくれた補助生徒の皆さんにも心から感謝します。

合格発表の後、1月31日（土）には第1回新入生オリエンテーションが行われ、制靴やカバン等の購入を行いました。続く、2月14日（土）には第2回新入生オリエンテーションが行われました。入学礼拝で歌う讃美歌や校歌の練習に取り組む姿、学校生活に関する説明を熱心に聞いている表情がとても印象的でした。

4月7日（火）にははいよいよ入学の日を迎えます。在校生の皆さん、新しい女学院生を笑顔で歓迎しましょう。

（中学教頭）

中学英語オラトリカルコンテスト

2月10日（火）、第50回オラトリカルコンテストがゲーンズホールにて開催されました。中学1・2年生は暗唱、中学3年生とインターナショナル部門の生徒はスピーチを発表しました。各クラスの代表として登壇したスピーカーたちは、冬休みから練習を重ねた成果を十分に発揮し、緊張感に包まれつつも熱のこもった素晴らしい発表をしてくれました。また、司会を務めた中学3年生の生徒たちも、この日のために一生懸命準備をし、大会を大いに盛り上げてくれました。コンテストのあとは合同終礼の時間を持ち、英語で讃美歌（Amazing Grace）を歌い、英語でお祈りを捧げました。

受賞者は以下の通りです。

中1	1 位	S. M	(1-2)
	2 位	K. H	(1-4)
	3 位	S. H	(1-6)
	敢闘賞	I. K	(1-5)

中2	1 位	H. A	(2-2)
	2 位	N. M	(2-2)
	3 位	B. S	(2-1)
	敢闘賞	A. K	(2-4)

中3	1 位	F. K	(3-5)
	2 位	Y. A	(3-4)
	3 位	F. S	(3-3)
	敢闘賞	T. R	(3-3)

インターナショナル部門	1 位	A. M	(3-4)
-------------	-----	------	-------

（英語科）

高校小論文コンクール

2月10日（火）に、毎年恒例の高1・2年生小論文コンクールが実施されました。

戦争や紛争の絶えない世界において、「未来をどう築いていくのか」が問われる時代を私たちは生きています。大学入試における小論文では、現代社会の諸問題に関心を持ち、「未来をどう築いていくのか」という「問い」にどれだけ向き合ってきたかが問われます。

今年度は、内山節の『里』という思想（高1）、梅林宏道「全体を生きる―相良倫子さんの詩を聴いて」（高2）からの出題でした。筆者の「想い」をしっかりと読み取り、どんな未来を生きていくかという、哲学的とも言える「問い」に対して、真摯に向き合えたかがポイントです。小論文コンクールは、自分たちの生き方を見つめ直すいい機会です。春休みの中で、再度、この世界の中で「未来をどう築いていくのか」を考えてみてください。受賞者のみなさん、おめでとうございます！！

[高1]

最優秀賞	1名	H. S (1-A)
佳作	3名	T. U (1-A)
		F. A (1-D)
		I. H (1-D)

[高2]

優 秀 賞	2名	K. K (2-A)
		S. H (2-B)



高1 最優秀者の発表の様子



高2 表彰式の様子

(国語科)

第5回探究フェス

3月13日(金)、第5回探究フェスが行われました。開会式では、本校卒業生の阪本愛さんに主題講演していただきました。阪本さんは、小学校の頃からタンポポの研究を始め、それが中高・大学・大学院までつながり、深海探査艇に乗船した経験もお持ちです。好きなことをずっと続けること、その中で人とつながり世界が開けていくこと、その経験がNHKで働く今につながっているとおっしゃ



っていました。生徒にとって、素敵なロールモデルになったと思います。



その後、各学年代表者による発表が行われました。初めて探究フェスに参加した中1からは、『誰かに伝える楽しさ』と『誰かの発表を聞く楽しさ』を感じることができました」という感想がありました。生徒たちの知的関心の広がり・深まりが感じられるひとときとなりました。

(探究活動推進委員会)



2026年度大学入試合格状況（3月12日 現在判明分）

国公立前期合格発表までの合格状況(過年度卒業生を含む)です。

今年も受験生はがんばりました。4月からはそれぞれが納得のできる進路を選び、歩んでいきます。

国公立大学(学校推薦・総合型含む) ※前期までの合格者数 60名(昨年度 49名)

北海道	1	神戸	2	長崎	1	山口東京理科	1
東北	1	島根	2	大分	1	周南公立	1
筑波	2	広島	18	東京都立	1	北九州市立	1
横浜国立	1	山口	9	川崎市立看護	1	九州歯科	1
信州	1	徳島	1	長岡造形	1	福岡県立	1
京都	1	愛媛	1	県立広島	3	長崎県立	1
大阪	1	九州	4	広島市立	1		



私立大学など(学校推薦・総合型含む)

国際医療福祉	1	東京薬科	2	同志社女子	1	岡山理科	1
千葉工	5	東京理科	3	立命館	27	倉敷芸術科学	1
青山学院	5	日本	4	龍谷	19	エリザベト音楽	1
北里	2	文化学園	1	追手門学院	3	広島文化学園	1
共立女子	1	武蔵野	4	大阪学院	1	広島経済	2
慶應義塾	1	武蔵野美	3	大阪歯科	5	広島工業	17
國學院	1	法政	2	関西	8	広島修道	18
国際基督教	2	明治	8	関西医	1	広島女学院	5
芝浦工	1	明治学院	2	関西外	4	福山	2
順天堂	1	立教	7	近畿	31	安田女子	50
上智	5	早稲田	4	摂南	1	広島国際	18
成蹊	1	愛知	4	桃山学院	1	日赤広島看護	4
大正	1	愛知淑徳	5	大和	2	久留米	1
中央	10	椋山女学園	1	関西学院	23	福岡	8
帝京	1	名古屋外	5	甲南	5	国立看護大学校	1
東海	4	京都産業	3	神戸学院	1	國學院北海道短	1
東京工科	3	京都女子	8	神戸薬科	3	呉医療センター附属看護学校	1
東京女子	1	京都芸術	1	兵庫医科	3	韓国外国語	1
東京造形	3	京都薬	2	武庫川女子	3	広島美容専門	1
東京電機	1	同志社	29	神戸常盤	2	広島情報専門	1

(進路指導部)



2026 年度中学生徒会役員 選挙結果

五人委員は、次の人たちが承認されました。

2年2組 T. A

2年4組 F. A

2年5組 Y. T

1年1組 K. K

1年6組 K. A

五人委員にはリーダーシップを発揮し、生徒会および女学院を盛り上げていってくれることを期待しています。

(中学選挙管理委員会顧問)

2026 年度高校生徒会執行委員 選挙結果

2月に行われた選挙によって、来年度新高1の生徒会執行委員は以下の5名に決まりました。先輩方と力を合わせ、来年度も生徒会行事を運営していきます。どうぞよろしく願いいたします。

3年1組 A. Y

3年1組 O. M

3年1組 S. K

3年1組 W. N

3年4組 A. M

(高校生徒会顧問)

保健室だより (5)

今年度も多くの生徒が保健室を利用しました。けがや体調不良への対応だけでなく、思春期特有の悩みや進路への不安など、心のケアの大切さを改めて感じる1年となりました。自分の体調に気づき、早めに相談できる生徒が増えてきていることは、大きな成長です。ご家庭での日頃の見守りと支えに、感謝いたします。

4月からの新生活を楽しみにしている人がいる一方で、新しい環境やこれから始まる忙しい生活に不安を感じている人も少なくありません。抱えるストレスはそれぞれ異なりますが、その中にどっぷりと入り込まず、少しずつ乗り越えていって欲しいと思います。

何をするにも基盤となるのは、心と身体の健康です。気になる症状や、これまで受診ができていない不調ありましたら、春休みの間に受診されることをお勧めいたします。

(保健室)

心の健康 (5)

校内に高3生の姿がなくなり、高校4階の教室も空っぽ。なんとなく重しが取れた軽やかさと同時にぽっかりと穴のあいた空虚感を私は感じています。高3生のいるご家庭の多くは、4月からこんな感じで生活されるのでしょうか。

中1生から高2生は今の学年が終わって新しい学年に進み、季節は冬から春へと移ります。

1年を通してみると、「変わり目」の時です。変わり目を境とした状況の変化は人にとって大いにストレスとなります。

先日、あるお母さんから「3学期が終わった日に、子どもの好きなケーキを買って家族で食べるんですよ。」というお話を伺いました。定例になっている楽しみだそうです。変わり目を上手に過ごす行事だと思いました。

「変わり目」はストレスがかかり、心が揺れるので切り替えの行動が必要です。また、まとめと準備の意味もありますので、節目をキチンと意識した生活は心の健康にとって大切なことです。実際のプランは各家庭に任されています。ひと工夫してみましよう。

教職員の動向

○今年度末に8名の教職員の方々が退職されます。皆様、本当にありがとうございました。今後のご活躍をお祈りいたします。

退職		(非常勤講師)	
渡辺 信一(校長・数学)	在職 25年	金信 美幸(聖書)	在職 1年
大野 礼慈(体育)	在職 1年	寺本 道生(美術)	在職 16年
三熊 佑依(英語)	在職 2年	平田 凜(美術)	在職 1年
川口 早香美(事務)	在職 3年		
片口 茜(事務)	在職 3年		

○2026年度の新体制について

校 長 中村 紀子
中学教頭 宇津 剛
高校教頭 長谷川 史



生徒の活躍

◇高校理科部化学班

令和7年度 第3回広島県科学セミナー(発表会) 新川電機賞受賞
研究題目「発色剤の研究～硝酸塩の還元による肉の発色～」
Y. A (2-B) T. R (2-C) G. S (2-B)

◇中高吹奏楽部

第49回広島県アンサンブルコンテスト

高等学校の部

管打七重奏 金賞

中学生の部

管楽八重奏(中3) 金賞
管楽八重奏(中2・1) 銀賞
金管六重奏 銀賞

◇2-D M. M

ひろしまフェニックス賞

(第24回大阪国際音楽コンクール 連弾部門 第2位)

◇1-C I. A

ひろしまフェニックス賞

(第25回大阪国際音楽コンクール ユース部門自由曲ジュニアコース第1位)





今月の聖句

「互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である。」

(ヨハネによる福音書 15 章 17 節)

2月18日より、キリスト教の暦では「受難節(レント)」を迎えました。この期間、私たちはイエス・キリストが背負われた十字架の苦難に、静かに想いを馳せます。イエス・キリストの受難、それはこの世に生きるすべての人への「赦し」のために捧げられたものでした。イエス・キリストがゴルゴダの丘で示した十字架の愛こそが、私たちに神の国と永遠の命の希望を与えてくれるものです。先日の中学校ホール礼拝において、中学1年生の生徒がこの「赦し」について、非常に深い洞察を語ってくれました。

しかし、イエス様が捕えられ、命の危険が迫った時、愛弟子ペテロは恐怖に負けてしまいます。周りの人に「あなたはイエスの仲間だろう」と言われ、ペテロは三回も「違う。私は知らない」と否定してしまいました。最も信頼していた人を守れず、裏切ってしまったのです。普通なら、信頼関係は壊れ、全てが終わったと思われても不思議ではありません。ペテロ自身も、深く後悔し、自分を責めたはずですが。これに対しイエス様はペテロを決して責めることはせず、怒ることも、過去を問い詰めることもありませんでした。復活後、イエス様はペテロに語りかけ、もう一度役割を与えました。それは、単なる赦しではなく、失敗を抱えたままでも前に進めるという、イエス様の姿勢を示していると、私は思いました。イエス様は、ペテロに「やり直せる場所」を与えたのです。

入学して間もない中学1年生の生徒から語られた「やり直せる場所」という言葉。私たちは、この女学院がまさにそのような場所でありたいと切に願っています。女学院が、誰もが失敗を恐れずに自分を耕せる「神の畑」であり、神様の愛によって守られる「神の建物」であること。そして、神の愛と共に歩む学び舎であり続けたいです。

(聖書科 K)